

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 24 年 2 月 23 日 (2012.2.23)

【公開番号】特開 2010-159837 (P2010-159837A)  
 【公開日】平成 22 年 7 月 22 日 (2010.7.22)  
 【年通号数】公開・登録公報 2010-029  
 【出願番号】特願 2009-3074 (P2009-3074)  
 【国際特許分類】

**F 1 6 F 15/03 (2006.01)**

**B 6 0 G 17/00 (2006.01)**

【F I】

F 1 6 F 15/03 G

F 1 6 F 15/03 Z

B 6 0 G 17/00

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 1 月 11 日 (2012.1.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ロータおよびステータからなるモータと、直線移動することでロータを回転させるねじ軸とを備えている電磁緩衝器において、

モータのロータは、ねじ軸の軌道溝にボールを介してねじ合わされたボールねじナットと、ボールねじナット外周に固定された円筒状磁石と、ボールねじナットの端面からそれぞれ軸方向外側にのびる円筒状突出部とからなり、ボールねじナットは、ナット本体および 1 対のエンドキャップからなり、磁石は、軸方向長さがナット本体の軸方向長さよりも大きくなされてその中間部分がナット本体に固定されており、各エンドキャップは、磁石の各端部内に嵌め入れられるとともにナット本体の各端面に突き合わされてナット本体の長さと磁石の長さとの差を調整しており、各突出部は、各エンドキャップの軸方向外側の端面からそれぞれ軸方向外側にのびていることを特徴とする電磁緩衝器。

【請求項 2】

磁石は、周方向に配置された複数の N 極および S 極を有しており、ボールねじナットの戻し通路は、N 極または S 極の周方向中央部に対応する位置に設けられていることを特徴とする請求項 1 の電磁緩衝器。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

この発明による電磁緩衝器は、ロータおよびステータからなるモータと、直線移動することでロータを回転させるねじ軸とを備えている電磁緩衝器において、モータのロータは、ねじ軸の軌道溝にボールを介してねじ合わされたボールねじナットと、ボールねじナット外周に固定された円筒状磁石と、ボールねじナットの端面からそれぞれ軸方向外側にのびる円筒状突出部とからなり、ボールねじナットは、ナット本体および 1 対のエンドキャ

ップからなり、磁石は、軸方向長さがナット本体の軸方向長さよりも大きくなされてその中間部分がナット本体に固定されており、各エンドキャップは、磁石の各端部内に嵌め入れられるとともにナット本体の各端面に突き合わされてナット本体の長さと磁石の長さとの差を調整しており、各突出部は、各エンドキャップの軸方向外側の端面からそれぞれ軸方向外側にのびていることを特徴とするものである。